

2 薄暗いあの湖のそばには

薄暗いあの湖のそばには
雲雀すら近寄ることはない
そのそばの崖が高く陰しく張り出すところで
聖人ケルヴィンは人知れず横になった
「ここなら大丈夫」と独り言 5
「僕の寝床が女に見つかることはあるまい」
ああ 善良なる聖人にはわからぬか
女とは困難をものともしないもの

ケルヴィンはキャサリンの目から逃れてきた
あの罪深い蒼い目から 10
ケルヴィンを長いこと慕い
過ちとも知らず わがものにしたいと願った
彼がどこへ逃げようとも
いつも軽い足取りでついてきた
東へ西へ どこを回ろうとも 15
いつも彼女の熱い視線が目の前にあった

切り立った崖の隠れたところに身を投げ出して
ようやく静かに眠れたところ
天国の夢を見て 女の笑顔が
追いかけてこれるなど思いもよらぬ 20
だが 地上でも天国でも
その気になれば彼女の力の及ばぬところはない
今や 彼が穏やかに寝ているところで
キャサリンは寄り添い涙を流している

彼女は恐れることなく彼の足跡を追ってきた 25
この岩の切り立つ陰しい奥地へ
そして朝が彼の視界に訪れた時
彼女の穏やかな視線も彼の視界に訪れたのだ

ああ あなた方聖人はなんと残酷な心をお持ちだ
ケルヴィンはいかめしい顔で立ちあがり 30
あまりのショックに
切り立った岩から彼女を突き落とした

グレンダロッホよ お前の薄暗い波は
あっという間に心優しいキャサリンの墓場となった
すぐに聖人ケルヴィンは（だがああ遅すぎた） 35
女の愛をひしと感じ 彼女の運命を嘆いた
「天よ彼女の魂に安らぎを」と彼が叫ぶと
その声が音楽のように辺りに響き渡った
すると彼女の霊が微笑みながら
湖の上をすうっと昇って行ったそうなの 40

(三木菜緒美訳)